

復刊

いざみ



所沢図書館だより
復刊33号(通巻111号)
題字 高橋 玄洋 氏

目次
P.1 地球環境を守るために！
P.2-3 講演録『南極・北極から地域の未来を考え てみよう！』
P.4-7 第24回所沢図書館 まつり
P.8 図書館川柳発表

地球環境を守るために！

近藤 君子

近年、異常気象による気象災害や、地球温暖化による海面上昇、生物多様性の喪失など、気候変動が大きな社会問題となっています。

1997年、気候変動枠組条約・第3回締約国会議(COP3)が京都で開催され、「京都議定書」が採択、児童書でも森林破壊、海洋汚染、地球温暖化など環境問題を扱った本が刊行されました。

人間が環境破壊を続ければ不気味な「沈黙の春」がやってくると、環境問題に警鐘を鳴らしたのは、1962年に出版されて以来、ロングセラーとなっている『沈黙の春』(新潮社)の作者で海洋生物学者のレイチェル・カーソンです。化学薬品が生態系に及ぼす影響を指摘した『沈黙の春』は環境保護運動のバイブルとして読まれ続けています。同著書とともに読み継がれてきたのが、自然にふれ、未知の神秘に出会う喜びを描いた『センス・オブ・ワンダー』(新潮社他)です。この本の翻訳者、上遠恵子さんが会長をしているレイチェル・カーソン日本協会・関東フォーラムでは定例会で『沈黙の春』

を講読し、カーソンが訴えてきたことを今の問題として捉え、話し合っています。

昨夏、カーソンが住んでいたアメリカ・メイン州に留学中の会員の高校生の息子さんが帰国し、定例会に参加。プラスチック問題を現地で見学し、その活動を日本の高校生とも交流したいという発言を受けて、勤務校でゴミ問題に取り組み、地元のごみ処理場などを取材した高校生に声掛けをしました。その女子生徒が作成した動画は学校図書館内の大型テレビで常時放映しています。テレビ横のコーナーにはプラスチックごみ、環境問題、気候変動などの関連書籍とともに、スウェーデンの環境活動家、グレタ・トゥーンベリの本も展示しています。生態系の変化に対して「大人の世代は何もしていない」という訴えは世界中の若者を動かし、Fridays For Future (FFF) の名のもとに広がり、世界各地で「気候変動デモ」が行われ、日本でも各地で活動が続いています。

地球の環境を守るために私たちはどう行動すべきか。2015年の国

連サミットで貧困、人権、教育、環境、平和などを対象として、地球上の「だれ一人取り残さない」、2030年までに世界を変えるというSDGs・持続可能な開発目標が17のゴールを目指し全加盟国によって採択されました。SDGsをテーマにした本が児童書でも次々と出版されています。未来を担う子どもたちの豊かな感性を育てて行くためにも図書館の役割は大きいと思います。

環境問題に警鐘を鳴らした『沈黙の春』が提起したことは、一層深刻さを増しています。『13歳からのレイチェル・カーソン』(かもがわ出版)は、地球は人間だけのものではないこと、気候危機から持続可能な社会をめざし、「未来へのバトン」について言及しています。未来を担う中高生以上に手にとってほしい一冊です。

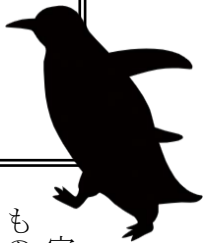
近藤 君子 氏

読書アドバイザー／(一社) 日本子ども本研究会／親子読書地域文庫全国連絡会／児童図書館研究会／科学読物研究会／他会員
公共図書館および地域開放型小学校図書館、大学図書館に勤務。
現在、ドルトン東京学園中等部高等部に司書として勤務中。

所沢図書館講演会 「南極・北極から地域の未来を 考えてみよう！」

講師 福西 浩氏

令和5年8月27日(日) 会場 所沢図書館 本館



SDGsについては今、小学校でも勉強を始めていて、真剣に考えなければいけない時期だとも話したので、今日はそういうことも話したいと思います。

(地球の限界とSDGs)

世界人口は、現在80億人位ですが、10年前は20億人位でした。急激に増えて人口爆発と言われましたが、増加率は1968年がピークです。これは、成長の限界と言われ、経済成長や、生物の増殖も急激に増えて、あるところで一定になり、その先は下がってきます。

現在、地球は人口爆発と経済活動の急拡大の結果、危機に直面しています。限界に近づいた今、特定の国だけではなく地球全体が持続可能である必要があります。それにはお互いに助け合う共生が必要です。SDGsは、まさにそのことを目指していますので、よく学んでいただきたいと思います。

今は、興味あることを自分で学ぶ探究学習が必要になっていきます。最

初に好奇心や疑問があつて、調べると発見があり、別の疑問が出てきて回つていき、学習が深まります。今回は、まさに探究学習の1つです。例えば南極・北極に詳しい学校の先生は、そんなにいません。色々な人が子どもの探究学習を刺激することが必要です。

私が、SDGsを担う人たちに必要と思う能力は、まず、地球の未来を考えること。それから、難題に挑戦する行動力です。行動力を生み出すのは知的好奇心。創造力も同じで知りたいという思いがないと出てこない。そして科学的な思考力。それから、チームワークとリーダーシップ。あと、危険察知の能力が必要です。



宮沢賢治の言葉に「われらに要るものは銀河を包む透明な意志。巨きな力と熱である。」とあります。地球だけでなく、銀河を含んで宇宙全体を考える位の広い視野が必要です。それから、違った面から見ると見えてくるものもあります。南極・北極と、皆さんが生活する地域等を比較して考えます。

私は、南極・北極はSDGsの最適な教材と考えています。理由の1つは氷の世界であること。氷は0℃で溶けるので、環境変化が一番出やすいのは南極・北極です。また、南極大陸を覆う厚い氷の中には、過去の空気、地球の歴史が閉じ込められています。

(南極・北極)

南極と北極は対照的で、中心部が南極大陸と北極海で、その面積がほぼ同じです。南極は、各大陸から遠く離れた所で、内陸では生命の存在が一切許されない厳しい世界です。北極は、北極海を中心に8つの国が囲んでいる地域で、夏には北極点でも気温が0℃近くまで上がり、色々な生命が存在します。

温暖化の影響で海水が少なくなると、ホッキョクグマは、アザラシを狩ることが難しくなり、飢えて死んでしまう個体もいますし、食べ残

しを狙っている動物たちも食べられなくなってしまう。

北極圏のグリーンランドに住む人々は、氷上で犬ぞりを使って狩りをします。40年前は、10月から6月位まで氷が張っていましたが、今は12月位まで海の氷が張らず、4月位に溶けてしまっています。

北極海の氷はすごい勢いで減っています。南極の氷は平均ではあまり減っていませんが、だんだん増減の振幅が大きくなっていて、急激な変化が起きる可能性があります。

南極大陸には地球上の氷の90%があつて、全部溶けると、世界の海面が約60m上昇します。グリーンランドは、全部溶けても7mですが、どんどん溶けていて現在の海面上昇の原因になっています。

(南極観測隊)

観測船で南極に近づくと、まず海に小さい氷山、流水が現れ、次に動かない定着氷、その次に氷床の先端が切り離されてできる、上が平らなテーブル状氷山が現れます。越冬した時に海面上の高さが70m位ある大きな氷山が流れてきました。密度の差で浮かびますが、氷山の90%は海面下です。

南極観測船しらせは、大型ヘリコプターを2機搭載する世界でも少

ない砕氷船です。海上自衛隊が運航している大きな理由の1つが、この大型ヘリコプターの運用にたくさんパイロットと整備員が必要のためです。

船首部から海水を放出し、海氷上の雪を湿らせます。雪はそのままだと大きな抵抗になります。そして、ナイフのエッジのような船首部で氷を切っていく感じで進みます。

昭和基地には、全部で70位の建物があります。日本の4つの観測基地の中で一番大きく、現在一年中使っているのは昭和基地だけで、他の基地は内陸調査等で使います。

内陸に行くときすぐマイナス60℃位になるので防寒服とか防寒靴が大事です。特に防寒靴。足は氷に接しているため一番冷えます。立川市にある南極・北極科学館に展示があります。

それから南極の昭和基地では、太陽が全く出ない期間が45日位と、その前後に非常に薄暗い時期があります。太陽が見えないと気分が憂鬱になりますので、寛げる空間を作ることが大事です。例えば、バーも基地内にあります。

南極越冬隊は30人位で、医者や機



械の専門家、気象やオーロラ、生物や地学等の観測をする専門家の集団です。

南極観測隊で、私が一番大事だと思うのは、チームワークとリーダーシップです。全員が対等な関係で互いに協力しますが、それには各々がリーダーシップを発揮する必要がありますと考えています。

私は、知的情熱の大切さを南極から学びました。過酷な状況の中でも目的を達成するために行動する人たちがいます。スコット探検隊に参加したチェリー・ガラードの『世界最悪の旅』という本に「探検とは、知的情熱の肉体的な表現である。」とあります。この人はコウテイペンギンを研究しようとしていました。コウテイペンギンは真冬に卵を産むので、卵を取るの是非常に過酷でしたが、そのために命を懸けます。それは、どうしても卵を調べたいという情熱から出てくる。すごい行動をするためには、強い動機を持たないと動かない。だから知的情熱が必要です。

(オーロラ)

私は、南極にオーロラの研究で行っていますが、ロケットを打ち上げてオーロラの中の粒子や光の強さ、電流等を調べました。最近では地上から

よりも人工衛星や国際宇宙ステーションから調べるのが盛んになっています。

オーロラは大体、下の方の高さが80〜100km。上は300〜500kmです。カーテンのようなタイプと、雲のような形をして点滅するタイプと2つあります。なぜこういうものが出るか不思議ですが、原因がまだん分かっています。



(質疑応答)

「オーロラが見られる頻度は。」

オーロラは基本的に毎日出ますが、雲があつては見られません。それから、月がかなり暗くなければいけないので、見られるのは昭和基地だとひと月の1/3位。非常に活発なものが出るのは1ヶ月に1回位です。

「宇宙は真空なのに、なぜオーロラは複雑な動きをするのか。」

オーロラが出現する宇宙空間は真空ではなく、希薄ですが酸素や窒素の分子・原子があり、その一部が電気を帯びたイオンとなったプラズマ状態で、電場がかかると動きまわります。オーロラの複雑な動きを解明するのはプラズマ物理学ですが、小さいスケールから宇宙全体まで同じ法則で解釈できます。だからオーロラの動きも、宇宙全体の解釈に繋がるので、発展性があります。科学は、1つ分かると応用範囲が広がっていく。科学的思考が大事なのはそこなのです。

福西 浩 氏

東京大学理学部物理学科卒、大学院博士課程修了後、米国ベル研究所研究員、国立極地研究所助教授、東北大学教授、日本学術振興会北京研究連絡センター長等を歴任。南極観測隊に4度参加し、第22次隊で夏隊長、第26次隊で越冬隊長を務める。専門は宇宙空間物理学で、地球及び惑星のオーロラ現象や雷放電発光現象を研究。

現在、東北大学名誉教授、日本地球惑星科学連合フェロー、公益財団法人日本極地研究振興会理事。



第24回 所沢図書館まつりを開催しました！

令和5年10月1日(日)～11月26日(日)に所沢図書館本館・分館で、所沢図書館まつりを開催しました。多くのイベントを行い、たくさんの方にご来館いただきました。当日の様子をご紹介します。



本館

11月18日(土)・19日(日)



おはなし会 18日(土)・19日(日)

18日(土)は、所沢市文庫・親子読書会連絡会、おはなし会ボランティア勉強会、19日(日)は、ストーリーテリング勉強会、所沢紙芝居の会の皆さんによる、子どもたちへの読み聞かせを行いました。普段のおはなし会とは違う特別感のある内容で、子どもたちは、とても楽しそうにおはなしを聞いていました。

大きい絵本やパネルシアターもあって楽しかったな♪



工作会

18日(土) 「キャッチボールマシーンをつくろう！」

19日(日) 「じぶんだけのしおりをつくろう！」

18日(土)は、所沢市文庫・親子読書会連絡会の皆さんによる工作会で、紙皿とティッシュペーパーで「キャッチボールマシーン」を作りました。19日(日)は、葉脈や押し花等を使用し「しおり」を作りました。親子で真剣に工作をしている姿が見られました。



みんなの作った作品素敵だったよ！



図書館探検 18日(土)・19日(日)

図書館の各階の書架の他、書庫や製本室など普段入ることのできない場所を案内しました。秘密基地のような部屋があった！また図書館探検したい！との声もあり大変好評でした。

クイズラリー 18日(土)・19日(日)

クイズは、2種類あり 初級編(小学生以下向け)は足跡を辿り、上級編(小学生以上向け)は地図と手掛かりメモを見てチェックポイントを探し、絵本を読んで、クイズに答えながらこども室内を巡ってもらいました。全問正解した子どもに景品を渡しました。初級編と上級編の両方に挑戦する子もいて、楽しんでいた様子でした。



少し難しかったけどみんな頑張ってたね！



腹話術 18日(土)

腹話術講師の関谷昇氏による、腹話術の実演と体験会を行いました。腹話術の他に音まねの実演もありました。体験会では、腹話術での声の出し方や人形の動かし方等を教わりました。終了後も質問が飛び交っていて、大変好評でした。

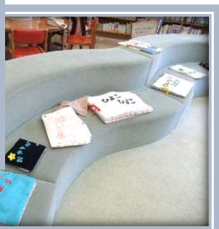


XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

落語公演会 19日(日)

早稲田大学落語研究会3名による、落語公演会を行いました。時折笑い声があふれていて、大変好評でした。

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX



布絵本展示 19日(日)

所沢市文庫・親子読書会連絡会にご協力いただき、すみれ児童館等から借用した布絵本の展示を行いました。親子で夢中になって布絵本を見ている様子でした。布絵本は子どもがめくりやすい！子どもと一緒に楽しめたとの声もありました。



親子で楽しんでたね！

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

所沢ゆかりの作家 10月26日(木)～11月28日(火)

所沢図書館では所沢市にゆかりのある作家・著者の方々をリストにし、毎年更新しています。

所沢図書館まつりでは2階の展示コーナーで所沢ゆかりの作家・著者リストの配布と著作の展示を行いました。



XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

所沢中央高校図書委員のお薦め本

11月4日(土)～11月28日(火)

所沢中央高校の図書委員の生徒が作成したお薦め本のポップ(34枚)を掲示し、所蔵資料を展示しました。絵を描いたものなど華やかなポップが並び、いつもより賑やかな展示となりました。

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX



図書館川柳 10月26日(木)～11月28日(火)

8月10日(木)～10月17日(火)まで、復刊いずみ31号等で図書館に関する川柳を募集し、10月26日(木)から展示・投票を行いました。得票の多かった川柳については本紙の最終ページで発表しています。

所沢分館 11月11日(土)・12日(日)

- ・ブックリサイクル 11日(土)・12日(日)
- ・じぶんでピッピッ!かしだしたいけんしてみよう
11日(土)・12日(日)
- ・とこぶんおはなし会スペシャル 11日(土)

ブックリサイクルでは大勢の方にお集まりいただき、大変好評でした。



椿峰分館 11月11日(土)・12日(日)

- ・貸出体験 図書館エージェントになろう 11日(土)・12日(日)
- ・オープンリサイクルブック 11日(土)・12日(日)
- ・おはなし会 ～としゃかんまつりSP～ 11日(土)
- ・大人の朗読会 12日(日)

貸出体験では子どもたちに自分で借りる本のバーコードをスキャンする体験をしてもらい、参加者には「体験証明カード」を配りました。



狭山ヶ丘分館 11月11日(土)・12日(日)

- ・歌人三ヶ島葎子講演会
葎子とみなみ ～わが子大きくなりにけり～ 11日(土)
- ・まめの木文庫さんとおはなし会 12日(日)
- ・本の福袋 11日(土)・12日(日)
- ・さあやのおみくじ 11日(土)・12日(日)
- ・リサイクルブック市 11日(土)・12日(日)

所沢ゆかりの歌人であるさいとうなおこ氏による三ヶ島葎子講演会は、とても分かりやすくユーモアを交えたお話に皆さん引き込まれ、あっという間の1時間でした。



富岡分館 11月18日(土)・19日(日)

- ・ブックリサイクル市 18日(土)・19日(日)
- ・貸出・返却体験 18日(土)・19日(日)
- ・スペシャルおはなし会 18日(土)
- ・本の福袋 18日(土)・19日(日)

スペシャルおはなし会では、すばなし・絵本・手遊び・紙芝居・工作が行われ、盛りだくさんのプログラムでした。



吾妻分館 11月4日(土)・5日(日)

××××××××××××××××

・展示「みんなのおすすめ本が知りたい -吾妻分館利用者のおすすめ本-

1日(水)～28日(火)

・リサイクル本市 4日(土)・5日(日)

・かしだしてつづき じぶんでピッピッ! 4日(土)・5日(日)

・ミニ工作会「紙トンボを作ろう」 4日(土)・5日(日)

・スペシャルおはなし会 4日(土)・5日(日)

展示では、中学生以上の利用者を対象に文学に限らず面白い、役に立ったなどのおすすめ本を募集し、紹介文と本を展示しました。紹介文を見て興味を持たれ、たくさんの展示本が貸出されました。



柳瀬分館 10月1日(日)～10月9日(月・祝)

××××××××××××××××

・スペシャルおはなし会 1日(日)

・大人のためのおはなし会 1日(日)

・郷土史研究会によるおはなし会 1日(日)

・本のリサイクルフェア 1日(日)～9日(月・祝)

郷土史研究会によるおはなし会は大型紙芝居を使い、『南永井のさつまいも』『滝の城の竜』が上演されました。



新所沢分館 11月18日(土)・19日(日)

××××××××××××××××

・スペシャルおはなし会 18日(土)

・本の福袋 18日(土)・19日(日)

・一般向け朗読会 18日(土)

・ブックリサイクル 18日(土)・19日(日)

本の福袋はテーマやレベルごとに中身が見えない状態で用意しました。たくさんの福袋が子どもたちに貸出されました。



松井小学校図書館 11月25日(土)・26日(日)

・ぬいぐるみおはなし会 25日(土)

・こうさくきょうしつ

「紙血を使ったクリスマスリース」 25日(土)

・おはなしかい 26日(日)

・こうさくきょうしつ「カタカタ お星さま」 26日(日)

・本だなのニャンちゃんを探せ!! 25日(土)・26日(日)

ぬいぐるみおはなし会では、ぬいぐるみは図書館にお泊り。夜中に図書館を探検し、好きな本を読みます。お迎えの日には、ぬいぐるみが選んだ本が持ち主に貸出されました。



◇◇ 図書館川柳発表 ◇◇

復刊いずみ31号等で募集した川柳は、21名の方から63首の応募をいただきました。川柳は所沢図書館本館2階で10月26日～11月28日に展示し、154票の投票をいただきました。その中から、得票の多かった作品を発表いたします。沢山の応募・投票ありがとうございました。



本の紙魚／並木

診察券

うっかり出した

利用券

《3位》 10票

アムサンブラック／東新井町

反比例

読める量とが

読みたいと

《2位》 11票

微老／元町

読めるかな

生きてるうちに

100人待ち

《1位》 15票

名推理

二度目と気づかず

ご満悦

微老／元町

《5位》 7票

金がない

夏と冬場は

図書館だ

新井 智子／下富

《6位》 6票

結末を

読むより早く

返却日

読み人知らず／並木

《7位》 5票

物価高

書店素通り

図書館へ

安松小町／上安松

《7位》 5票

嬉々として

行ったら月曜

休館日

所沢市下安松／下安松

《7位》 5票

返却日

年追うことに

早くなる？

微老／元町

編集発行：所沢市立所沢図書館 〒359-0042 所沢市並木 1-13

ホームページアドレス パソコン <https://www.tokorozawa-library.jp/>

スマートフォン <https://www.tokorozawa-library.jp/opw/OPS/OPSINDEX.CSP>

電話 / FAX

本館 04-2995-6311 / 04-2992-1421
所沢分館 04-2923-1243 / 04-2928-8195
椿峰分館 04-2924-8041 / 04-2928-8148
狭山ヶ丘分館 04-2949-1193 / 04-2949-8577
松井小学校図書館 04-2992-2796 / 04-2992-2797

富岡分館 04-2943-3636 / 04-2943-6680
吾妻分館 04-2924-0249 / 04-2928-8250
柳瀬分館 04-2944-4023 / 04-2945-7236
新所沢分館 04-2929-1905 / 04-2929-1906

2024年3月15日発行 復刊いずみ33号 (通巻111号)